2019年度

山梨県下高校生への
公開授業

7月29日（月）～8月9日（金）

山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI

2019年度
山梨県下高校生への
公開授業

公開授業について

山梨大学では、教育学部、医学部、工学部、生命環境学部がそれぞれの特色を生かした講義等を山梨県内の高校生向けに、「公開授業」として開講します。

大学の授業に触れる機会を通して、学問の面白さ、様々な教育分野に触れる楽しさ、奥深さを理解してもらい、「大学で学ぶ」動機となればと思います。またすでに専門的な分野について興味や関心をもつ高校生にとっても意欲を高める機会になると思います。

多数の高校生の参加をお待ちするとともに、この機会が山梨大学への進学の「きっかけ」へと繋がれば幸いです。

実施日程および場所

1．実施期間

2019年7月29日（月）～ 8月9日（金）

2．実施場所

医学部キャンパス… 医　　学　　部：7月29日（月）～ 8月2日（金）　詳細は４～６ページをご覧ください。
【医学部の公開授業は全て医学部キャンパス（中央市）で実施します。授業は全て看護学科教育研究棟にて事前受付を行いますので、授業の始まる15分ほど前までに看護学科教育研究棟に集合してください。】

甲府キャンパス…… 生命環境学部：8月 5 日（月）～ 8月 6 日（火）　詳細は６ページをご覧ください。
工　　学　　部：8月 7 日（水）～ 8月 8 日（木）　詳細は７ページをご覧ください。
教　育　学　部：8月 7 日（水）～ 8月 9 日（金）　詳細は７ページをご覧ください。

3．実施時間

午前の部　 9：00～10：30、10：40～12：10
午後の部　13：10～14：40、14：50～16：20

公開授業の申込について

公開授業の申込は、各高校で取りまとめて申し込むことになっています。
公開授業の受講を希望される方は、公開授業に関して担当されている高校の先生にご相談の上、申し込んでください。
＜締め切りは６月中旬です。＞

受講生への注意事項等

1．山梨大学甲府キャンパス、医学部キャンパスの場所等の案内図は、裏表紙を参照してください。
2．遅刻をしないようにお願いします。
3．当日は、講義室等を案内する担当の教職員がいますので、場所等がわからない場合にはその教職員にお尋ねください。
4．公開授業の内容については、山梨大学のホームページでも案内していますので、参照してください。
（参照 URL：http://www.yamanashi.ac.jp/social/3690）
5．不明な点については、下記にお問い合せください。
山梨大学教務企画課総務グループ
住所：〒400-8510　甲府市武田 4-4-37
電話：０５５－２２０－８０４３　ＦＡＸ：０５５－２２０－８７９６

[講義一覧]

【注 意】 医学部の公開授業は全て医学部キャンパス(中央市)で実施します。
授業は、全て看護学科教育研究棟にて事前受付を行いますので、授業の始まる15分ほど前までに看護学科教育研究棟に集合してください。
受付終了後に職員が各教室へ誘導いたします。

「ヒューマンサイエンスの世界へ」(医学部)

医ー1 遺伝子(ゲノム)医療の最先端と社会との接点
◎山縣然太朗(社会医学講座)

医ー2 看護学科学生制作の DVD から学ぶ臨床看護の実際
◎坂本　文子・石井　くみ子・長崎　ひとみ・
大日向陽子　他(基礎・臨床看護学講座)

医ー3 ゲノムを自在に操れるゲノム編集技術
ー科学や社会に与える影響ー
◎川原　敦雄(医学教育センター 発生生物学)

医ー4 救急集中治療医学とは
◎森口　武史(救急集中治療医学講座)

医ー5 最近わかってきた新しい脳の仕組み
◎小泉　修一(薬理学講座)

医ー6 臨床検査の実際
◎井上　克枝・多田　正人
(臨床検査医学講座・検査部)

医ー7 身体をみる 4 つの技法 (視診、触診、打診、聴診)
◎菅沼真由美・谷口　珠実・瀧本まどか
(健康・生活支援看護学講座　高齢者・在宅看護学領域)

医ー8 目でみる人体のがん
◎近藤　哲夫(人体病理学講座)

医ー9 地域で暮らす人々を対象とする看護
～保健師(公衆衛生看護)の活動～
◎武井　勇介・神崎　由紀(健康・生活支援看護学講座)

医ー10 ボディーメカニクスの理論と活用
◎浅川　和美(基礎・臨床看護学講座)

医ー11 「緩和ケア」の持つ力:
最先端の医学研究を通じて生と死について考えてみよう
◎飯嶋　哲也・熊倉　康友(麻酔科学講座)
<協力者>中嶋　君枝 (看護部)・小林　薫 (市立甲府病院)

医ー12 国際保健の世界にようこそ!
(見て触れて考える、発展途上国の人々の生活と健康)
◎宮本　和子
(国際交流センター・医学部分室(医学部・看護学科))

医ー13 切らずに優しく治すがんの放射線療法
(最先端放射線治療室見学・体験ツアー付き)
◎大西　洋(放射線医学講座)

医ー14 微生物の看護とのかかわり
◎田辺　文憲(基礎・臨床看護学講座)

医ー15 リハビリテーション医学と理学療法
◎八木野　孝義(リハビリテーション部)

医ー16 子どもの事故予防
◎安藤　晴美・大島　智恵(成育看護学講座　小児看護学)

医ー17 記憶って何?
◎大塚　稔久(生化学講座第 1 教室・神経科学)

医ー18 実践 !! 今日は外科医のお仕事、
「手術」を体験しましょう
◎河口　賀彦(外科学講座第 1 教室)

医ー19 新しいくすりのできるまで
◎小口　敏夫(薬剤部)

医ー20 生命科学研究を支えるマウス発生工学の基礎
(人工授精、胚の培養と観察、胚の移植)
◎伊藤　禎洋・長友　啓明
(総合分析実験センター 資源開発分野)

医ー21 体験!血管の中から病気を治す! 血管内治療
ーIVR の世界ー
◎荒木　拓次・岡田　大樹(放射線医学講座)

医ー22 精神を病む人への看護
◎坂井　郁恵・宮田　知子
(健康・生活支援看護学講座)

医ー23 切らずに治す脳卒中治療
◎金丸　和也・橋本　幸治・木内　博之
(脳神経外科学講座)

医ー24 日本の医療の現状と医師に求められるもの
◎鈴木　章司(医学教育センター)

医ー25 明日の医療をどのように創り出すか?
◎岩﨑　甫(先端応用医学講座)

医ー26 ウイルス感染症とは?
◎山下　篤哉(微生物学講座)

医ー27 生命科学研究を支えるマウス発生工学の基礎
(人工授精、胚の培養と観察、胚の移植)
◎伊藤　禎洋・長友　啓明
(総合分析実験センター 資源開発分野)

医ー28 幸せな食生活とは
◎宮村　季浩(健康・生活支援看護学講座)

医ー29 食べ物・睡眠と将来の生活習慣病の関係
◎横道　洋司(社会医学講座)

医ー30 骨髄バンクドナーの骨髄提供から命の大切さを振り返る
◎大島　智恵・安藤　晴美(成育看護学講座)

医ー31 3D 画像を見ながら心臓の構造の理解と心臓手術体験
◎加賀重亜喜(外科学講座第 2 教室)

医ー32 小児がんとたたかう
◎犬飼　岳史(小児科学講座)

[講義一覧]

「自然と社会の共生科学」（生命環境学部）

生命ー１　山梨のワイン情報と発酵食品の商品開発について
◎柳田　藤寿（地域食物科学科）

生命ー２　「場所の力」を引き出す：観光をツールとした地域づくり
◎菊地　淑人（地域社会システム学科）

生命ー３　ワインのグローバル化
◎小松　志朗（地域社会システム学科）

生命ー４　生物がひらく脱・石油社会の将来
◎大槻　隆司（生命工学科）

生命ー５　農業と環境について考えてみましょう！
◎片岡　良太（環境科学科）

生命ー６　ゲノム科学がもたらす生物学の進展
◎幸田　尚（生命工学科）

生命ー７　森や海の生き物たちがつくる雲
◎松本　潔（環境科学科）

生命ー８　乳（ニュウ）から見える世界いろいろー乳の七変化ー
◎谷本　守正（地域食物科学科）

【注意】　『生命ー８』は１４：４０（時間厳守）までに総合研究棟１階・Y-１５教室に集合してください。

「未来世代を思いやるエンジニアリング」（工学部）

エー１　溶液から生まれる新しい電子セラミックス
◎上野　慎太郎（応用化学科）

エー２　結晶の工業応用
◎有元　圭介（クリスタル科学研究センター）

エー３　工業製品の故障の原因を解析する
◎高橋　正和（コンピュータ理工学科）

エー４　循環型社会の実現へ向けて
～適正な廃棄物管理とは？～
◎金子　栄廣（土木環境工学科）

エー５　コンピュータシミュレーションが開く新たな自動車開発
◎岡澤　重信（機械工学科）

エー６　私たちの未来とロボット
◎丹沢　勉（情報メカトロニクス工学科）

エー７　光と電子のミクロな同期現象と未来の光科学技術への挑戦
◎石川　陽（先端材料理工学科）

エー８　私たちの暮らしを支える半導体エレクトロニクス
◎村中　司（電気電子工学科）

「知のフロンティア」（教育学部）

教ー１　理解こそ『最「幸」』の発達援助
ー特別支援教育がめざす地平ー
◎古屋　義博（障害児教育コース）

教ー２　金管楽器の進化から眺める音楽史概観
◎大内　邦靖（芸術身体教育コース）

教ー３　確率で見る現実世界
◎中村　宗敬（科学教育コース）

教ー４　憲法って何だろう、立憲主義って何だろう
◎森元　拓（生活社会教育コース）

教ー５　第二言語習得理論から見る効率的な英語学習のあり方
◎ 田中　武夫（言語教育コース）

教ー６　幼児の世界をのぞいてみよう
◎大野　歩（幼小発達教育コース）

教ー７　漢詩を読むー李白と杜甫ー
◎伊﨑　孝幸（言語教育コース）

教ー８　どうして学校で保健体育を学ぶのか？
◎金沢　翔一（芸術身体教育コース）

教ー９　新しい SI 単位と次元
◎長島　礼人（科学教育コース）

教ー１０　ライフデザインを考えようー現代生活の課題を探るー
◎志村　結美（生活社会教育コース）

【注意】　『教ー２』は１０：３０（時間厳守）までに総合研究棟１階ロビーに集合してください。

担当者および日程

[医学部]

7月29日(月)

9:00〜10:30	10:40〜12:10	12:10〜13:10	13:10〜14:40	14:50〜16:20
医−1 [講義] 遺伝子(ゲノム)医療の最先端と社会との接点 山縣　然太朗	医−2 [講義] 看護学科学生制作のDVDから学ぶ臨床看護の実際 坂本　文子･石井　くみ子 長崎　ひとみ･大日向　陽子　他	昼食	医−4 [講義] 救急集中治療医学とは 森口　武史	医−6 [講義･実験] 臨床検査の実際 井上　克枝･多田　正人
募集人員：30 / 最小開講人数：5	募集人員：40 / 最小開講人数：10		募集人員：40〜 / 最小開講人数：20	募集人員：10 / 最小開講人数：4
開催キャンパス：医学部キャンパス	開催キャンパス：医学部キャンパス		開催キャンパス：医学部キャンパス	開催キャンパス：医学部キャンパス
講義室：8107	講義室：8109		講義室：8109	講義室：検査部カンファレンス室
	医−3 [講義･その他(胚の観察)] ゲノムを自在に操れるゲノム編集技術 −科学や社会に与える影響− 川原　敦雄		医−5 [講義] 最近わかってきた新しい脳の仕組み 小泉　修一	医−7 [講義･演習] 身体をみる４つの技法 (視診･触診･打診･聴診) 菅沼 真由美･谷口 珠実･瀧本 まどか
	募集人員：25 / 最小開講人数：10		募集人員：30 / 最小開講人数：5	募集人員：30 / 最小開講人数：6
	開催キャンパス：医学部キャンパス		開催キャンパス：医学部キャンパス	開催キャンパス：医学部キャンパス
	講義室：1302		講義室：8107	講義室：成人看護実習室

7月30日(火)

医−8 [講義･演習] 目で見る人体のがん 近藤　哲夫		昼食	医−11 [演習] 「緩和ケア」のもつ力: 最先端の医学研究を通じて生死について考えてみよう 飯嶋　哲也・熊倉　康友 〈協力者〉中嶋　君枝（看護部）・小林　薫（市立甲府病院）	
募集人員：20 / 最小開講人数：5			募集人員：12 / 最小開講人数：6	
開催キャンパス：医学部キャンパス			開催キャンパス：医学部キャンパス	
講義室：8107　病理実習室			講義室：8107	
医−9 [講義] 地域で暮らす人々を対象とする看護 〜保健師(公衆衛生看護)の活動〜 武井　勇介･神崎　由紀	医−10 [講義･演習] ボディーメカニクスの理論と活用 浅川　和美		医−12 [講義･演習] 国際保健の世界にようこそ！ (見て触れて考える、 発展途上国の人々の生活と健康) 宮本　和子	医−13 [講義] 切らずに優しく治す がんの放射線療法 (最先端放射線治療室見学･ 体験ツアー付き) 大西　洋
募集人員：30 / 最小開講人数：3	募集人員：24 / 最小開講人数：6		募集人員：30 / 最小開講人数：5	募集人員：30 / 最小開講人数：5
開催キャンパス：医学部キャンパス	開催キャンパス：医学部キャンパス		開催キャンパス：医学部キャンパス	開催キャンパス：医学部キャンパス
講義室：8109	講義室：8309 基礎成人実習室		講義室：8109	講義室：放射線治療センター2階 カンファレンス室

[医学部]

	9:00〜10:30		10:40〜12:10		12:10〜13:10	13:10〜14:40		14:50〜16:20	
7月31日(水)	医−14 [講義] 微生物の看護とのかかわり 田辺　文憲		医−16 [講義] 子どもの事故予防 安藤 晴美･大島 智恵		昼食	医−18 [演習] 実践 !! 今日は外科医のお仕事､「手術」を体験しましょう 河口　賀彦			
	募集人員	最小開講人数	募集人員	最小開講人数		募集人員		最小開講人数	
	30	1	15	2		40		1	
	開催キャンパス	医学部キャンパス	開催キャンパス	医学部キャンパス		開催キャンパス		医学部キャンパス	
	講義室	8107	講義室	8107		講義室		院生棟４階セミナー室　手術室	
	医−15 [講義] リハビリテーション医学と理学療法 八木野　孝義		医−17 [講義] 記憶って何？ 大塚　稔久			医−19 [講義] 新しいくすりのできるまで 小口　敏夫		医−20 [実験] 生命科学研究を支える マウス発生工学の基礎 (人工授精､胚の培養と観察､胚の移植) 伊藤　禎洋･長友　啓明	
	募集人員	最小開講人数	募集人員	最小開講人数		募集人員	最小開講人数	募集人員	最小開講人数
	30	10	50	10		50	10	6	1
	開催キャンパス	医学部キャンパス	開催キャンパス	医学部キャンパス		開催キャンパス	医学部キャンパス	開催キャンパス	医学部キャンパス
	講義室	8109	講義室	8109		講義室	8107	講義室	動物実験施設胚操作室
8月1日(木)	医−21 [実験] 体験！血管の中から病気を治す！血管内治療 −IVRの世界− 荒木　拓次・岡田　大樹					医−24 [講義] 日本の医療の現況と医師に求められるもの 鈴木　章司		医−26 [講義] ウイルス感染症とは？ 山下　篤哉	
	募集人員	最小開講人数				募集人員	最小開講人数	募集人員	最小開講人数
	24	5				20	5	20	1
	開催キャンパス	医学部キャンパス				開催キャンパス	医学部キャンパス	開催キャンパス	医学部キャンパス
	講義室	生理学実習室				講義室	8107	講義室	8109
	医−22 [講義] 精神を病む人への看護 坂井　郁恵・宮田　知子		医−23 [講義･演習･その他] 切らずに治す脳卒中治療 金丸 和也・橋本 幸治・木内 博之			医−25 [講義] 明日の医療をどのように創り出すか？ 岩﨑　甫		医−27 [実験] 生命科学研究を支える マウス発生工学の基礎 (人工授精､胚の培養と観察､胚の移植) 伊藤　禎洋･長友　啓明	
	募集人員	最小開講人数	募集人員	最小開講人数		募集人員	最小開講人数	募集人員	最小開講人数
	30	20	12	2		30	10	6	1
	開催キャンパス	医学部キャンパス	開催キャンパス	医学部キャンパス		開催キャンパス	医学部キャンパス	開催キャンパス	医学部キャンパス
	講義室	8107	講義室	8109		講義室	8109	講義室	動物実験施設胚操作室

[医学部]　[生命環境学部]

	9:00〜10:30	10:40〜12:10	12:10〜13:10	13:10〜14:40	14:50〜16:20
8月2日(金)	医−28 [講義] 幸せな食生活とは 宮村　季浩 募集人員 30 / 最小開講人数 5 開催キャンパス 講義室 / 医学部キャンパス 8109	医−29 [講義] 食べ物・睡眠と将来の生活習慣病の関係 横道　洋司 募集人員 15 / 最小開講人数 1 開催キャンパス 講義室 / 医学部キャンパス 8109	昼食	医−31 [講義・演習] 3D画像を見ながら心臓の構造の理解と心臓手術体験 加賀　重亜喜 募集人員 15 / 最小開講人数 1 開催キャンパス 講義室 / 医学部キャンパス 大学院生棟4階セミナー室	
		医−30 [講義] 骨髄バンクドナーの骨髄提供から命の大切さを振り返る 大島　智恵・安藤　晴美 募集人員 20 / 最小開講人数 2 開催キャンパス 講義室 / 医学部キャンパス 8107		医−32 [講義] 小児がんとたたかう 犬飼　岳史 募集人員 40 / 最小開講人数 5 開催キャンパス 講義室 / 医学部キャンパス 8107	
8月5日(月)	生命−1 [講義] 山梨のワイン情報と発酵食品の商品開発について 柳田　藤寿 募集人員 30 開催キャンパス 講義室 / 甲府キャンパス Y−15	生命−2 [講義] 「場所の力」を引き出す：観光をツールとした地域づくり 菊地　淑人 募集人員 110 開催キャンパス 講義室 / 甲府キャンパス Y−15		生命−3 [講義] ワインのグローバル化 小松　志朗 募集人員 110 開催キャンパス 講義室 / 甲府キャンパス Y−15	生命−4 [講義] 生物がひらく脱・石油社会の将来 大槻　隆司 募集人員 40 開催キャンパス 講義室 / 甲府キャンパス Y−15
8月6日(火)	生命−5 [講義] 農業と環境について考えてみましょう！ 片岡　良太 募集人員 30 開催キャンパス 講義室 / 甲府キャンパス Y−15	生命−6 [講義] ゲノム科学がもたらす生物学の進展 幸田　尚 募集人員 40 開催キャンパス 講義室 / 甲府キャンパス Y−15		生命−7 [講義] 森や海の生き物たちがつくる雲 松本　潔 募集人員 110 開催キャンパス 講義室 / 甲府キャンパス Y−15	生命−8 [講義・実験] 乳(ニュウ)から見える世界いろいろ −乳の七変化− 谷本　守正 募集人員 20〜30 / 開催キャンパス 甲府キャンパス / 講義室 S2-207(食品加工実習室) 備考 14:40(時間厳守)までに総合研究棟1階・Y-15教室に集合してください。

［工学部］［教育学部］

	9:00〜10:30	10:40〜12:10	12:10〜13:10	13:10〜14:40	14:50〜16:20
8月7日(水)	エ−1 ［講義］ 溶液から生まれる 新しい電子セラミックス 上野　慎太郎 募集人員 90 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−31	エ−2 ［講義］ 結晶の工業応用 有元　圭介 募集人員 90 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−31	昼食	エ−3 ［講義］ 工業製品の故障の 原因を解析する 高橋　正和 募集人員 90 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−31	エ−4 ［講義］ 循環型社会の実現へ向けて 〜適正な廃棄物管理とは？〜 金子　栄廣 募集人員 90 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−31
8月8日(木)	エ−5 ［講義］ コンピュータシミュレーションが 開く新たな自動車開発 岡澤　重信 募集人員 90 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−31	エ−6 ［講義］ 私たちの未来とロボット 丹沢　勉 募集人員 90 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−31		エ−7 ［講義］ 光と電子のミクロな同期現象と 未来の光科学技術への挑戦 石川　陽 募集人員 90 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−31	エ−8 ［講義］ 私たちの暮らしを支える 半導体エレクトロニクス 村中　司 募集人員 90 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−31
8月7日(水)	教−1 ［講義］ 理解こそ『最「幸」』の発達援助 ー特別支援教育がめざす地平ー 古屋　義博 募集人員 110 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−15	教−2 ［講義・実技］ 金管楽器の進化から 眺める音楽史概観 大内　邦靖 募集人員：30　開催キャンパス：甲府キャンパス　講義室：L527 備考：10:30(時間厳守)までに総合研究棟1階ロビーに集合してください。		教−3 ［講義］ 確率で見る現実世界 中村　宗敬 募集人員 110 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−15	教−4 ［講義］ 憲法って何だろう、 立憲主義って何だろう 森元　拓 募集人員 110 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−15
8月8日(木)	教−5 ［講義］ 第二言語習得理論から見る 効率的な英語学習のあり方 田中　武夫 募集人員 110 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−15	教−6 ［講義］ 幼児の世界をのぞいてみよう 大野　歩 募集人員 110 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−15		教−7 ［講義］ 漢詩を読むー李白と杜甫ー 伊﨑　孝幸 募集人員 110 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−15	教−8 ［講義］ どうして学校で 保健体育を学ぶのか？ 金沢　翔一 募集人員 110 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−15
8月9日(金)	教−9 ［講義］ 新しいSI単位と次元 長島　礼人 募集人員 110 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−15	教−10 ［講義］ ライフデザインを考えよう ー現代生活の課題を探るー 志村　結美 募集人員 110 開催キャンパス：甲府キャンパス 講義室：Y−15			

医－1
医学部キャンパス

7月29日(月)
9:00～10:30

遺伝子(ゲノム)医療の最先端と社会との接点

山縣　然太朗（社会医学講座）

遺伝子研究は急速な進歩を遂げ、遺伝子解析の技術は医療に応用され始めました。昨年からは「がんゲノム」医療が始まり、がんの治療に遺伝子情報を用いて、最適な治療をすることが始まりました。本講義では、最新の遺伝子(ゲノム)医療の状況をわかりやすく解説するとともに、倫理や法律など先端医療技術と社会との接点についてその課題をお話しします。

医－2
医学部キャンパス

7月29日(月)
10:40～12:10

看護学科学生制作のDVDから学ぶ臨床看護の実際

坂本　文子･石井　くみ子･長崎　ひとみ
大日向　陽子　他(基礎･臨床看護学講座)

臨床で働く看護師は、患者さんの病状･治療はもちろん生活上のニーズに応えられるように、日々考えながら看護をしています。その一部を、本学看護学科学生が臨床実習での学びを活かしてシナリオ作成から撮影、出演の全てを行い、作り上げたDVDを教材として講義します。本講義は例年実施していますが、今年度のDVDのテーマは「がん性疼痛･腹水のある肝がん患者に対する苦痛を最小限にした安全･安楽な洗髪」と「脳腫瘍がある患者の安全･安楽な日常生活ケア」です。看護の実際をわかりやすく解説し、看護師の役割について一緒に考えます。

医－3
医学部キャンパス

7月29日(月)
10:40～12:10

ゲノムを自在に操れるゲノム編集技術ー科学や社会に与える影響ー

川原 敦雄(医学教育センター発生生物学)

ヒトのゲノム解読完了が2003年に宣言され、そのゲノムは約31億塩基対から構成されていることが明らかとなりました。現在では、哺乳類以外にも大腸菌、シロイヌナズナ、ゼブラフィッシュなど広範囲なモデル生物のゲノム情報を高校生の皆さんも利用することができる状況です(インターネットで誰もがアクセスできます)。このように人類は様々な生物の設計図を手に入れた訳ですが、実はゲノムの機能はほとんど理解されていません。ヒト遺伝子を指定しているゲノム領域は３％程で、それ以外の領域の機能は不明な点が多く未知の世界が広がっています。ゲノムの機能を解明するためにもゲノムを自在に操る新規発生工学技術の開発が必要不可欠です。近年、ゲノム編集技術と呼ばれる最先端の生命工学技術が注目されています。ゲノム編集技術を活用すれば、これまで困難であった標的ゲノム部位を自在に改変することができます。ゲノム編集技術は、ヒト遺伝子疾患をゲノム改変で修復する再生医療や肉質の優れた家畜などの品種改良への産業応用が検討されています。最近では、ゲノム編集技術がヒト受精卵においても機能することが示され、生命倫理や生殖医療において難しい問題が提起されています。この公開授業では、私達がゲノム編集技術を用い解析を進めているゼブラフィッシュの形態形成に関する研究成果を紹介しながら21世紀において大きな躍進が期待される生命科学の世界を案内します。

医－4
医学部キャンパス

7月29日(月)
13:10～14:40

救急集中治療医学とは

森口　武史（救急集中治療医学講座）

救急集中治療医学とは

救急医学といっても一般にはなじみが薄く、「救急車で来る交通事故などのけが人を診療する所」「夜間に具合が悪くなった時に受診する所」といったイメージ、いわゆる外傷救急や夜間診療のイメージしかないのではないでしょうか？また集中治療医学に至っては、大きい手術の後などに入る集中治療室の名前だけしか聞いたことがないのではないかと思います。この2つの分野の名前を冠した救急集中治療医学が私たちの専門ですが、これは死に瀕した患者を救うことを目的にした、非常に裾野の広い重要な分野です。医学の数ある分野の中でも進歩が著しいところあり、純粋に学問的な部分での守備範囲が広く、同時に社会の枠組みの中で議論されることの多い、非常にユニークかつやりがいがあると分野です。

今回はその救急集中治療医学について、その歴史、進歩を簡単に紹介し、現在までの成果を分かりやすく解説したいと思います。大学病院だからこそ出来る高度先進医療の一端を感じていただければ幸いです。また山梨県の救急医療の現状についても概説します。本講義を通じて救急集中治療について理解を深めてもらい、興味を持ってもらえればと思います。

講義内容[医学部]

医－5 医学部キャンパス 最近わかってきた新しい脳の仕組み

7月29日(月)
13:10～14:40

小泉　修一（薬理学講座）

転んで足をすりむいたとき、痛いのは足だが、これを痛いと感じているのは脳である。

焼肉の味覚を感知しているのは舌だが、それを焼肉の味と感じているのは脳である。

「脳の時代」と言われて久しいが、現代科学、現代医学により、脳はどこまでわかったのだろうか？

本講義では、最近わかってきた新しい脳の役者「グリア細胞」を紹介しながら脳が、痛いとか旨い等の知覚情報を感じる仕組みとその破綻について紹介する。

モルヒネ等の強力な麻薬性鎮痛薬でも治療できないような、難治性疼痛とグリア細胞についても述べる。

医－6 医学部キャンパス 臨床検査の実際

7月29日(月)
14:50～16:20

井上　克枝・多田　正人（臨床検査医学講座・検査部）

患者さんの病気の診断、治療効果の判定のために臨床検査が行われます。

この授業では、血液などの検体がどのように処理され、測定されるのか、実際に測定機器を見たり、データの説明を受けて臨床検査を理解します。

医－7 医学部キャンパス 身体をみる４つの技法（視診・触診・打診・聴診）

7月29日(月)
14:50～16:20

菅沼　真由美・谷口　珠実・瀧本　まどか
（健康・生活支援看護学講座 高齢者・在宅看護学領域）

保健医療福祉領域で働く保健師、助産師、看護師、養護教諭などの看護職には、身体を診て健康状態を判断する能力が求められています。この授業は、健康状態を診るための４つの基本技法である視診（視覚を使い形態・色・大きさなどの観察）、触診（手と指を触れて、温度、手触り、振動、形を観察）、打診（指で叩いて生ずる音から位置、形、大きさ、組織の密度等を観察）、聴診（聴診器などを使って体内の音を観察）について理解することを目的に、講義と演習で構成されています。

講義で、心臓、肺、消化管の解剖生理学、病気と関連づけて、測定の意味や方法を学びます。その後、参加者同士で、呼吸音、心音、腸蠕動音の聴取や、パルスオキシメーターを装着して、血中酸素飽和度の測定を演習します。

授業は、実習用ベッドを使用して行いますから、スカート以外の動きやすい服装で参加して下さい。

医－8 医学部キャンパス 目で見る人体のがん

7月30日(火)
9:00～12:10

近藤　哲夫（人体病理学講座）

日本人の死因のトップは「がん」であり、３人に１人が「がん」で亡くなっている。ではヒトを死に至らしめる「がん」とは一体どんな病気なのだろう？本授業では、古典的な形態学から科学の進歩により明かされつつあるがんの正体を病理学の視点よりわかりやすく解説します。講義に引き続く人のがん組織を用いた顕微鏡実習では、目でみることによってがん細胞の特徴をより深く理解し、また医療におけるがんの組織診断プロセスの体験実習を行います。

講義内容

1.「がん」って何？
2.「がん」ができるまで
3.「がん」のかたち

実習：自分の目でヒトの「がん」をみてみよう！

医－9
医学部キャンパス

7月30日(火)
9:00～10:30

地域で暮らす人々を対象とする看護 ～保健師(公衆衛生看護)の活動～

武井　勇介･神崎　由紀(健康･生活支援看護学講座)

皆さんは、保健師という職業をご存じですか？保健師は、看護師や助産師と同じ、「看護」を仕事とする職業の１つです。あまり馴染みがないかも知れませんが、実はこれまで皆さんが健康に暮らしてきたとしても、ほぼ全員の方が出会っているはずの看護職なのです。保健師は主に、市役所や町(村)役場の職員として、地域で暮らす人々が健康に暮らしていけるように「看護」しています。

例えば、赤ちゃんが生まれたお宅に訪問し、「(赤ちゃんは)順調に大きくなっているかな。」「(お母さんやお父さんが)育児に困っていないかな。」などを確認し、必要な支援をしています。少し大きくなると、地域の保健センターなどで「おしゃべりできるようになったかな。」「虫歯はないかな。」など健康診査で確認し、必要に応じて支援をしています。そのほか、成人や高齢者を対象として、健康づくりや病気の予防･早期発見、介護予防といった予防活動、さらに、病気があっても、自宅で暮らし続けられるような支援と、幅広い活動をしています。

本講義では、公衆衛生看護という考えのもとに活動する保健師の仕事について、一部体験を含めて紹介したいと思います。

医－10
医学部キャンパス

7月30日(火)
10:40～12:10

ボディーメカニクスの理論と活用

浅川　和美(基礎･臨床看護学講座)

ボディーメカニクスとは、生物の構造や運動を力学的に探求したり、その結果を応用することを目的とした学問です。講義の中では、人間の身体の構造や機能を力学的な視点からとらえ、無理、無駄のない動作について学びます。後半は相互にベッド上で人の身体を動かす援助体験を通して、ボディーメカニクスの活用について学びます。

＊受講する方は洗濯後の清潔な運動着に着替えて参加してください。患者役を体験するときはベッドに横になります。

医－11
医学部キャンパス

7月30日(火)
13:10～16:20

「緩和ケア」のもつ力: 最先端の医学研究を通じて 生死について考えてみよう

飯嶋　哲也・熊倉　康友（麻酔科学講座）
〈協力者〉中嶋　君枝（看護部）
小林　薫（市立甲府病院）

「緩和ケア」は現代医療の重要な一分野として確固たる地位を築きつつあります。2010年に肺がん患者さんたちを対象とした米国マサチューセッツ総合病院のTemelらの研究が大きなきっかけとなっています。この研究では、診断の時から緩和ケアチームがかかわることによって、より長く生きることができたという結果が報告されました。この結果は発表と同時に「The New York Times」などの主要紙に大きく取り上げられました。Temelらの研究によって、長い開発期間と莫大な開発費用が必要な抗がん剤ではなく「緩和ケア」によって「命を延ばす」ことが可能であるということがわかったからです。

では、Temelらはどのような「緩和ケア」をおこなったのでしょうか？研究論文を紹介しながら「緩和ケア」の実際を紹介します。この演習では参加していただく皆さんと一緒に「緩和ケア」のもつ力について考えていきたいと思います。みんなで議論する中で「生きるとはどういうことか？」、「死ぬとはどういうことか？」について考えることになると思います。

このセミナーを受講していただいた後、「がんばって生きていこう！」と思えるようなセミナーとしたいと考えています。

医－12
医学部キャンパス

7月30日(火)
13:10～14:40

国際保健の世界にようこそ！ (見て触れて考える、 発展途上国の人々の生活と健康)

宮本　和子(国際交流センター･医学部分室
(医学部･看護学科))

世界には様々な国があり、生活があり、健康問題があります。特に発展途上国では、日本で暮らしていてる私たちには想像もできないような様々な問題があり、人々の健康･命を脅かしています。

「国際保健」は特に、発展途上国の人々の健康や命を守るためにはどうしたらよいか、何ができるのか、この世界にある健康や命に関する不平等を解決するにはどうしたら良いか、等を考えていく保健医療の学問領域であり、実践活動です。

この授業では、国際保健の基礎的知識に関する講義や異文化理解グループワーク、発展途上国での保健活動事例の検討などを通して、皆さんと一緒に発展途上国の人々の健康について考える時間をもちたいと願っています。

医－13 医学部キャンパス
切らずに優しく治す がんの放射線療法
（最先端放射線治療室見学・体験ツアー付き）

7月30日(火)
14:50～16:20

大西　洋(放射線医学講座)

がん患者は増加の一途であり、その死亡数は年々増加しています。日本人のうち、二人に一人ががんにかかり、三人に一人ががんで亡くなります。がんの治療法には、主に手術・抗がん剤・放射線治療の３つがあります。その中で、放射線治療は日進月歩のコンピュータ技術を応用しており、照射技術の進歩はめざましいものがあります。放射線治療は、電子を加速して金属にあててＸ線を発生させ、それを体の外から患者さんの病巣部にめがけて照射します。放射線があたっている最中に患者さんは痛みも熱さも感じません。放射線をがん病巣だけに正確に集中して照射し、そのまわりにある正常部分を守ることが出来るので、副作用をほとんど出さずにがん病巣を完全に消すことが可能です。また、放射線治療は体に触れずにがんを治すので、手術の様に切ることによる苦しみはなく、お年寄りの方も安心して受けられます。しかも、治療の終わった後には、手術ではその臓器が無くなってしまいますが、放射線治療ではそのまま残りますので、元通りの生活に戻れます。例えば、声帯のがんの手術後には声が出なくなってしまいますが、放射線治療では普通に声が出せます。これを、生活の質(Quality of Life)が高い、と表現します。更に、このような体に優しい放射線治療は手術に比べて、治療後に体力があまり落ちないことから、がんが再発しにくい免疫力が保たれることになります。このように、がんを治す上でメリットがたくさんある放射線治療は、近年大変見直されており、年々放射線治療を受ける患者さんの数が増加しています。更に山梨県の放射線治療装置は世界でも最先端の装置を取り揃えています。医療界では放射線治療を専門とする医師や技師が足りず、今後若い皆さんの力を期待しています。本講義では、がんがどんな病気かということと、最新の放射線治療の威力を皆さんに分かりやすくお話しするとともに、世界屈指といわれる大学病院の放射線治療室を見学し、希望者には模擬放射線治療を体験していただきます。

医－15 医学部キャンパス
リハビリテーション医学と理学療法

7月31日(水)
9:00～10:30

八木野　孝義(リハビリテーション部)

リハビリテーションとは単に身体機能の回復や日常生活能力の改善を図ることではなく、その人がその人に適した権利を回復することである。そのためには教育や職業及び地域・社会におけるリハビリテーションも重要になる。その中で医学的リハビリテーションでは身体や精神障害の改善や疾病予防などの役割を担うがその手段として理学療法・作業療法・言語聴覚療法などが施行される。

今回はリハビリテーションの理解を深めることを目的にリハビリテーションの概念と医学的リハビリテーションの代表的手段である理学療法の具体的な方法について解説する。

医－14 医学部キャンパス
微生物の看護とのかかわり

7月31日(水)
9:00～10:30

田辺　文憲（基礎・臨床看護学講座）

微生物には様々な種類がありますが、目に見えないため看護には全く関係ないと思う人がいるかもしれません。実は、微生物は看護の領域に大きくかかわっています。病院の外来には風邪（ウイルスが原因）の患者さんやノロウイルスによる胃腸炎の患者さんなどが来院し、病原体が豊富に存在しています。また、看護師が病棟で毎日使用している注射器やピンセットなどは滅菌や消毒が必要ですが、これも微生物を相手にして行っている処置です。現在、病院で問題となっている院内感染は、看護師から患者さんに感染させることも含まれ、医療者は微生物に対する正しい知識を持つ必要があるのです。このような微生物の看護とのかかわりについて、感染を防ぐしくみも含めてわかりやすく解説します。

医－16 医学部キャンパス
子どもの事故予防

7月31日(水)
10:40～12:10

安藤　晴美・大島　智恵
(成育看護学講座　小児看護学)

子どもの身体は大人と比べて単に小さいだけでなく、機能自体が未熟です。また、子どもは乳幼児期、学童期、思春期・青年期といった各時期によって運動、知能、コミュニケーション、情緒・社会性などの諸機能は著しく発達します。このことをふまえ、成長・発達の特徴とあわせた子どもに起こりやすい事故について概説します。今回は、熱中症、転落、外傷、交通事故、熱傷、溺水、誤飲、誤食などを取り上げて、子どもの事故予防をみなさんと一緒に考えていきます。

医－17 医学部キャンパス 記憶って何？

7月31日(水)
10:40～12:10

大塚　稔久(生化学講座第１教室･神経科学)

ヒトを含む動物はどのように物事を記憶しているのでしょうか？特に、テスト前になれば、一度覚えた勉強内容は忘れたくない！ですよね？このようなヒトの学習や記憶のメカニズムの研究は、近年、分子生物学やイメージング技術、遺伝子改変マウスの作製技術の発展によって急速にその理解が進んできました。一方で、辛い出来事や未曾有の災害を経験したときは、辛い記憶は忘れたいものです。この記憶を忘れる、記憶の消去に関する研究も世界各国で研究が進められています。本授業では、ハエやマウスを使った研究を通じて、ヒトの記憶と忘却のメカニズムの最先端研究を紹介します。

医－18 医学部キャンパス 実践！！今日は外科医のお仕事、「手術」を体験しましょう

7月31日(水)
13:10～16:20

河口　賀彦(外科学講座第１教室)

外科医にはいろいろな仕事があります。そのなかには、外科医だからこそできる仕事、「手術」があります。そして、手術でしか治らない病気もたくさんあります。みなさんも「手術」は知っていると思いますが実際に外科医がどのように「手術」をしているか、体験してみませんか？

実は今や「手術」は、開腹手術といってお腹を大きく切って手術を行うのではなく、腹腔鏡やロボットなどを用いてモニター越しに行うことが主流となっています。今回は、この腹腔鏡手術を体験していただきたいと思います。

外科医は器用でないとなれないと思っていませんか？私もあまり器用なほうではありませんでした。

本日はその練習内容も教えますので一緒にやってみましょう。

まずはぜひ、「手術」を体験し、外科医への第一歩を歩んでください。

外科医も最初から「手術」が上手な訳ではありません。外科医は「手術」という試合の前に日々練習をしています。そして練習を重ね、経験を積むことで一人前の外科医になっていきます。

医－19 医学部キャンパス 新しいくすりのできるまで

7月31日(水)
13:10～14:40

小口　敏夫(薬剤部)

皆さんもご存じのように、現在の医療にくすりは不可欠です。病気克服のため新薬がつぎつぎと開発され、医療の場に提供されています。一方で、医薬品の副作用による被害なども報道され、社会的な関心事になっています。本講義では新しい医薬品がどのように生み出されるのか、医薬品はどのような工夫がなされているのか、使われている医薬品の安全性はどうなのかについて、わかりやすく解説します。

医－20 医学部キャンパス 生命科学研究を支えるマウス発生工学の基礎（人工授精、胚の培養と観察、胚の移植）

7月31日(水)
14:50～16:20

伊藤　禎洋・長友　啓明
(総合分析実験センター資源開発分野)

ES細胞やiPS細胞を利用した、再生医療への期待が高まっています。このことを理解するためには、細胞の分化、組織や臓器の発生のメカニズムを研究する発生学の知識が必要です。

この公開授業では、マウスを用いて発生学の基礎を学習します。

1. マウスの精子、卵子を用いて人工授精を行います。
2. 子宮に着床するまでの胚発生の様子を顕微鏡で観察します。
3. 雌マウスに麻酔をかけて、卵管に胚を移植します。

加えて、実験の空き時間にテキストを用いて、発生学の基礎を学習し、最新の生命科学のトピックスについて解説します。

医－21
医学部キャンパス

8月1日(木)
9:00～12:10

体験！血管の中から病気を治す！ 血管内治療　－IVRの世界－

荒木　拓次・岡田　大樹（放射線医学講座）

血管内治療をご存じですか。今、医療はできるだけ患者さんの体に負担をかけない治療が求められています。そこで、体を切らずに、血管の中から細い管（カテーテルと呼んでいます）を入れて、カテーテルを病変部まで進めて、カテーテルからいろいろな治療を行う血管内治療がクローズアップされています。画像を使って器具を操り治療する技術をIVR（画像下治療）といいますが、血管内治療はその一つです。

血管は全身につながっています。手や足の血管からカテーテルを入れて、頭（脳）から足の先まで到達することができるのです。これを利用して、動脈の瘤に詰め物を行ったり、動脈硬化で狭くなった血管を広げたり、癌に抗癌剤を直接流し込んだり、いろいろな臓器でいろいろな治療が行われています。大きく切らず、管が入るだけの小さい穴をあけるだけで治療する。血管内治療は体に負担をかけない治療法なのです。

今回、この講義では、まずスライドを使って、実際の血管内治療の方法の説明をします。その後、カテーテルをどのように血管内に入れ、病変まで進めるか、腹部の血管模型を使って、実際にカテーテルをさわりながら、実習します。さらに、動脈瘤モデルや動脈狭窄モデルを使って、塞栓（詰め物をする）や拡張の手技を実際に行ってもらいます。これらの実習を通して、血管内治療を理解し実感してもらう予定です。

医－22
医学部キャンパス

8月1日(木)
9:00～10:30

精神を病む人への看護

坂井　郁恵・宮田　知子（健康・生活支援看護学講座）

4人に1人は一生のうちに何らかの精神の病にかかる時代であり（WHO）、日本では重点対策が急務とされるがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4大疾病に、精神疾患が入るようになりました。

精神疾患の種類は多数ありますが、この授業では、精神科入院患者の約6割を占め、その病因・病態が解明されていない統合失調症を病む人への看護について講義します。

彼らとその家族が地域社会で生き生きと暮らしていくためにはどのような支えが必要となるのかについても紹介します。

医－23
医学部キャンパス

8月1日(木)
10:40～12:10

切らずに治す脳卒中治療

金丸　和也・橋本　幸治・木内　博之（脳神経外科）

脳卒中は、長年の間、日本人の死因の第一位を占めていました。ほんの数十年前までは根本的な治療法はなく、ただ安静にして回復を願うのみでした。しかし、近年の目覚ましい医療の発展により、次々と革新的な治療が導入されてきました。脳神経外科では、手術用顕微鏡を用いた繊細な手術により、多くの患者さんの命が救えるようになってきました。さらに、この20年足らずの間に、脳卒中の血管内治療が急速に発展しました。カテーテルという細いチューブを用い、出血性病変を閉塞させたり、逆に閉塞した正常血管を再開通させることが可能となり、頭部を切開することなく脳卒中治療が行えるようになってきました。本授業では、この脳卒中の血管内治療を勉強します。講義により脳血管内治療の方法や手術機材の概要を理解したら、病院の血管内手術室を見学します。さらに、シミュレーターによる脳血管内治療を体験し、最先端医療を肌で感じていただきます。

医－24
医学部キャンパス

8月1日(木)
13:10～14:40

日本の医療の現況と医師に求められるもの

鈴木　章司（医学教育センター）

医療の高度化や社会情勢の変化などにより、これからの医療、医師に求められるものも変化しています。単に知識や技術を習得すれば良いのではなく、「自ら考える力」がとても大切となります。本講義では、心臓外科医の仕事などを例に、医療に関心がある高校生とともにプロフェッショナリズムについて考えたいと思います。

医－25 医学部キャンパス 明日の医療をどのように創り出すか？

8月1日(木)
13:10~14:40

岩崎　甫（先端応用医学講座）

最近の医療技術の進歩は著しく、iPSなどの幹細胞を用いる再生医療や遺伝子治療などのこれまでにない新しい方法が登場してきています。ただ、これらの新しい方法を患者さんに届けるためには、慎重な基礎実験を経て、患者さんの協力を頂きながら一歩一歩進めていくことが必要です。

本授業では、これからの医療を担う新しい技術をどのように創り出していくか、皆さんと一緒に考えます。

医－26 医学部キャンパス ウイルス感染症とは？

8月1日(木)
14:50~16:20

山下 篤哉（微生物学講座）

皆さんは、風邪の原因は何かと考えたことがあるでしょうか？多くの人は、細菌(菌あるいはバイ菌)によるものだと思っているかもしれません。ところが、その原因の8割はウイルスです。では、ウイルスとは何か？その問いに答えられる人はどのくらいいるでしょうか？

本講義では、まず、ウイルスと細菌がどのように違うのか(生物学的、病原性など)についてわかりやすくお話したいと思います。次に、人に病気を起こす新たなウイルスがどのようにしてこの世の中に登場するのか？ということについて、HIV(エイズウイルス)を例にお話したいと思います。更に、ウイルス感染症に対する治療薬とは、どのように開発されるのかについてもお話したいと思います。

医－27 医学部キャンパス 生命科学研究を支えるマウス発生工学の基礎（人工授精、胚の培養と観察、胚の移植）

8月1日(木)
14:50~16:20

伊藤　禎洋・長友　啓明
（総合分析実験センター資源開発分野）

ES細胞やiPS細胞を利用した、再生医療への期待が高まっています。このことを理解するためには、細胞の分化、組織や臓器の発生のメカニズムを研究する発生学の知識が必要です。

この公開授業では、マウスを用いて発生学の基礎を学習します。

1. マウスの精子、卵子を用いて人工授精を行います。
2. 子宮に着床するまでの胚発生の様子を顕微鏡で観察します。
3. 雌マウスに麻酔をかけて、卵管に胚を移植します。

加えて、実験の空き時間にテキストを用いて、発生学の基礎を学習し、最新の生命科学のトピックスについて解説します。

医－28 医学部キャンパス 幸せな食生活とは

8月2日(金)
9:00~10:30

宮村　季浩(健康・生活支援看護学講座)

私たちにとって食べることは、単なる栄養補給だけでなく、おいしく食べることが生活に豊かさをもたらす点でも重要です。でも、「おいしい」ってどうやって感じているのか考えたことがありますか。おいしさは、舌で感じる味だけでなく、香りや見た目、食べたときの食感、食べる音など、五感すべてを使って感じています。それだけでなく、食べる人のお腹の空きぐあいや体調、さらには、誰と食べるか、どこで食べるかといった食べる環境なども影響するとされています。でも実際は、どうしたらおいしく食べられるのか、よく分かっていないことが多いのです。飽食の時代に暮らす私たちにとって、食べ物は、いつでも、どこでも、なんでも、簡単に手に入るようになり、おいしく食べることは昔に比べて簡単になったはずです。ところが、食べることを人生の楽しみと感じている人は増えていません。それどころか、食べることに感心のない人、ただなんとなく食べているだけの人が増えてきています。幸福な人生をおくるため、食べることはとても大切です。おいしさについてのさまざまな研究を見ながら、幸せな食生活とはなにか、考えていきます。

医－29 医学部キャンパス

8月2日(金)
10:40～12:10

食べ物・睡眠と将来の生活習慣病の関係

横道　洋司(社会医学講座)

「生活習慣病」って聞いたことがありますか？具体的には、肥満、糖尿病、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症、狭心症、心筋梗塞、脳卒中、腎臓病、といった病気のことです(脂質異常症：血液の中のコレステロール値が高い、低い状態です；高尿酸血症：これが高いと痛風という病気につながります)。

医学では、これらの病気になる原因を、高校で言う化学、生物学、物理学、数学を使って解明することは、皆さん知っていますよね。一方で沢山の人間の行動と病気の発症を観察することによって、病気の原因の一つを見付け出そう、という疫学という学問があります。疫学研究は、病気の原因ははっきりとは分からないけれど、この行動を取ればその病気になる確率を下げられる、または上げてしまう、ということを教えてくれます。例えば夜遅くスナック菓子を食べ続けると糖尿病になり易い、とか。

医学の中に、この「病気の原因になっているかもしれない要素を探求する。それが原因かは分からないけれどまずは病気のリスクを減らそう」という分野があることを知ってもらい、研究成果から、どの行動がどの病気につながりやすいそうか、一緒に考えてもらうのがこの授業のねらいです。

医－30 医学部キャンパス

8月2日(金)
10:40～12:10

骨髄バンクドナーの骨髄提供から命の大切さを振り返る

大島　智恵・安藤　晴美
(成育看護学講座　小児看護学)

造血幹細胞移植(骨髄移植など)は、白血病などに冒された造血幹細胞(血液のもととなる細胞)を健康なものに置き換える治療法で、骨髄提供者(ドナー)なくしては行えない治療です。

しかし、骨髄提供は痛みや、命の危険を伴う可能性がある行為でもあります。

報道や書籍により骨髄移植を受けた患者の体験はよく知られていますが、ドナーがどのような体験をしているのかはあまり知られていません。

この講義では、骨髄移植の概要や骨髄提供の方法を説明するとともに、私が出会った骨髄バンクのドナーやその家族との関わりを振り返り、命の大切さについて考えたいと思います。

医－31 医学部キャンパス

8月2日(金)
13:10～16:20

3D画像を見ながら心臓の構造の理解と心臓手術体験

加賀　重亜喜(外科学講座第２教室)

ヒトの心臓を好きな方向からみることのできる3D画像(自分で操作できる)を観ながら、ヒトの心臓と構造が似ているブタの心臓も直に触れることで心臓の構造・しくみをわかりやすく理解できます。代表的な心臓病の病態、成因とその治療法を解説します。手術の基本手技である切開、縫合(糸で縫いつける)、結紮(糸をしばる)を実際の手術器具を用いて各自が体験します。手術使用されている電気メスや超音波凝固切開装置などのエネルギーデバイスなどの使用も体験ができます。心臓手術を手術ビデオを観ながら解説し理解を深めます。最新治療である大動脈ステントグラフト内挿術、経カテーテル的大動脈弁植え込み術についても実物を用いてその手術術式を解説します。心臓血管外科医の日常生活や仕事のやりがいについてもお話しながら、医学部進学に関する疑問などにもお答えします。

医－32 医学部キャンパス

8月2日(金)
13:10～14:40

小児がんとたたかう

犬飼　岳史(小児科学講座)

小児に発症するがん(小児がん)の治療が進歩し、病気を克服して日常生活に復帰する子ども達が増えていることを知っている人も多いことでしょう。それでは、白血病をはじめとする小児がんは、どうして発症するのでしょうか。そして、どのような治療が行われているのでしょうか。小児がんを解明することは、生命科学の進歩にも大いに役立ってきました。この授業では、小児がんの発症のしくみから実際の治療、そしてそこに医学や生命科学の発展がどう寄与してきたのかを解説するとともに、子ども達の長期の入院生活を支える様々な活動についても紹介します。

生命－1 甲府キャンパス

8月5日(月)
9:00～10:30

山梨のワイン情報と発酵食品の商品開発について

柳田　藤寿(地域食物科学科)

山梨県には、約８０のワイナリーがあり全国一のワイン生産量の県です。近年、日本のアルコール飲料に関して、消費量が右肩上がりの日本ワインの最新の情報とワイン用ブドウ(甲州ブドウやマスカット・ベーリーAブドウ)やワインの醸造法などのワインの基礎知識について講演します。また、演者はワインや飲料などの商品開発も行っていますので、世界初の海洋酵母ワインの研究開発、幻の湖-富士六湖(赤池)からのワインの研究開発、甲府市の開府５００年記念のスパークリングワインの開発、大豆で作った飲むヨーグルト飲料の研究開発、食べるブドウジュースの研究開発に関しても講演します。

生命－2 甲府キャンパス

8月5日(月)
10:40～12:10

「場所の力」を引き出す：観光をツールとした地域づくり

菊地　淑人(地域社会システム学科)

訪日外国人観光客数増加の報道が流れる一方で、観光客が溢れて生活環境の悪化を招いているという報道も多くなってきています。いわゆる「オーバーツーリズム」の問題です。

観光は世界的に成長を続けており、極めて変化の激しい市場といえます。そうしたなかで、地域が観光をツールに持続可能な地域づくりをするには、観光をツールとして目指したい地域の方向性などについて明確なビジョンが求められています。目先の利益だけを追いかけていても、受け入れ側(地域)・観光客双方が真に満足できる観光地域づくりは難しいのが現実です。

地域にとって実りある観光地づくりを進めるためには、自分たちの地域に存在する(埋もれている)資源を活かし、長期的にその地域をどうしていきたいのかを展望し、マネジメントすることが不可欠です。本講義では、そうした前提に立ちながら、持続可能な観光地域づくりに資するための理論と方策の一端について、「場所性」と「場所の力」という２つのキーワードを通じて考察していきます。

生命－3 甲府キャンパス

8月5日(月)
13:10～14:40

ワインのグローバル化

小松　志朗(地域社会システム学科)

本講義では、山梨県の特産物であるワインについて国際関係の観点からお話します。過去数百年の間に世界のワインの生産・消費はグローバルに拡大してきました。その背景には、特定の国家の思惑と政策があり、国家間の競争と協調があります。つまり、ワインのグローバル化と国際関係は密接に結びついているのです。そしていま、日本はワインのグローバル化の最前線にいます。国内では昨年「日本ワイン」というカテゴリーが正式に定められ、世界の中での日本のワインの位置づけが明確になった一方、ヨーロッパとの間では今年から自由貿易が本格的に始まりワインの輸出入が活発になりそうです。このような時代状況を踏まえて、日本のワイン、山梨のワインがこれからどうなっていくのか、それを取り巻く国際関係とはどのようなものなのか、参加者の皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

生命－4 甲府キャンパス

8月5日(月)
14:50～16:20

生物がひらく脱・石油社会の将来

大槻　隆司(生命工学科)

産業革命以降、人類は石油資源のもつ大きなエネルギーを活用して現在まで発展を続けてきました。現在ではエネルギー源や、プラスチックをはじめとする多くの生活必需品を石油資源に依存しています。しかし、石油資源に頼った社会には限界があり、さらには地球温暖化等により私たち自身の生存を危うくしてしまうことがわかってきています。

この講義では、石油資源利用がなぜ地球温暖化につながるのかといった基礎知識から、私たちが現在の便利な生活を維持しながら繁栄を続けるためにはどうすればよいのかまで、生物機能を活用したバイオマス利用技術などの最新研究の内容を交えて解説します。

生命－5 甲府キャンパス
8月6日(火)
9:00～10:30

農業と環境について考えてみましょう！

片岡　良太(環境科学科)

2050年には世界の人口は90億人を突破すると言われています。90億人が食べていける食糧を私たちは賄うことができるのでしょうか。農業を取り巻く環境は大きく変化しています。この問いについて考えるとともに、“農業と環境”をキーワードに持続可能な農業について多面的に考えてみたいと思います。

生命－6 甲府キャンパス
8月6日(火)
10:40～12:10

ゲノム科学がもたらす生物学の進展

幸田　尚(生命工学科)

ゲノムDNAは生物の遺伝情報が書き込まれた設計図であり、その配列を解析することは生物を知る上で必須の技術になっています。ゲノム配列解析技術の急速な進歩は、基礎から応用に至るまで、あらゆる生物学分野に大きな変化をもたらしながら発展を続けています。大量のゲノム情報が得られるようになって生物の見方がどのように変わったのか、どのようなことができるようになったのかについて、動物の発生、生命の進化、あるいは医学への応用などいくつかの最新の研究トピックを交えてゲノム科学の現在と将来について講義します。

生命－7 甲府キャンパス
8月6日(火)
13:10～14:40

森や海の生き物たちがつくる雲

松本　潔(環境科学科)

空に浮かぶ雲は、地表に届く日射量を左右します。雲の量や性質は、地表の気温を決める極めて重要な要素といえます。雲は小さな水滴や氷の粒からできていますが、これら雲粒は、空気中の微粒子を核として水蒸気が集まってつくられます。では、雲粒の核となる微粒子は、いったいどのような物質なのでしょうか？　自然界で雲粒の核となる微粒子の多くは、海のプランクトンや森の木々から放出されたガス状成分が、大気中での光化学反応を経て発生します。つまり、海や森での生物活動が、空に浮かぶ雲の量や性質を、そして私たちの住む地表の気温を決めているのです。本講義を通して、そんな自然の不思議なからくりを知ってもらいたいと思います。

生命－8 甲府キャンパス
8月6日(火)
14:50～16:20

乳(ニュウ)から見える世界いろいろ －乳の七変化－

谷本　守正(地域食物科学科)

人とウシさんの関わりは古いものです。ウシさんから乳をいただき、様々な形態の乳製品を作り上げ、食してきました。人類の食料確保の知恵の産物でもあります。

本講座では、乳および乳製品加工技術に触れ、様々な製品に加工される過程を、科学的な視点で眺めてみたいと思います。実例を通して、乳成分の変化の様子を実感してもらいます。

エー1
甲府キャンパス

8月7日(水)
9:00~10:30

溶液から生まれる新しい電子セラミックス

上野　慎太郎(応用化学科)

セラミックスと聞くとお茶碗などハイテクとは程遠いイメージを持つ人もいるが、実はあらゆる電子機器の中で、様々な極小サイズのセラミックス材料が活躍し我々の近代社会を支えてくれている。こうした電子セラミックス材料中では、目に見えぬほどの小さな"ナノ"の組織が、機能を発揮するために各々重要な役割を果たしている。ヒトで例えるなら細胞の様なもので、この"無機細胞"の役割をよく理解して材料を組み上げられれば、優れた電子セラミックス"ナノ"材料を創り出せる。セラミックスの結晶は上手にすると、溶液中から低温で合成でき、さらにその"サイズ"や"カタチ"をも操ることが可能になる。この溶液法は"ナノ"材料創りに欠かせない技術となっている。世の中を大きく変えることのできる電子セラミックス材料開発の舞台で行われている、溶液法を駆使した「微構造制御」、「ナノ複合化」をテーマとする、"小さな世界"の研究に触れてみよう!

エー2
甲府キャンパス

8月7日(水)
10:40~12:10

結晶の工業応用

有元　圭介(クリスタル科学研究センター)

"結晶"という言葉から皆さんが思い浮かべる物質にはどんなものがあるでしょうか？ダイヤモンド、ルビー、水晶などはとてもポピュラーな結晶ですね。これらの結晶の色(透明度)や形は大変美しく、神秘的なので、宝石として人気があります。実は、結晶材料は電子部品等の工業製品としても幅広く使われています。小さいものではスマートフォンの中にもたくさんの結晶材料が使われていますし、大きいものでは太陽電池パネルなどが結晶材料で作られています。結晶は原子が規則正しく並んだ理想的な固体であるため、様々な点で優れた性質を持っているのです。この授業では、結晶がどのように私達の生活の役に立っているかを学び、結晶研究の魅力を感じ取ってもらえればと思っています。

エー3
甲府キャンパス

8月7日(水)
13:10~14:40

工業製品の故障の原因を解析する

高橋　正和(コンピュータ理工学科)

現代の生活は様々な工業製品により支えられている。しかし、ひとたび工業製品に故障が生じると、その生活は容易に崩れてしまう。このような事態を防ぐには個々の工業製品に対して故障解析を行い、高い信頼性を実現しておく必要がある。そこで本講義では工業製品の故障の原因を分析する代表的な方法(故障モード影響解析、故障木解析、HAZOP等)について概説し、それらの適用方法について事例を交えて解説する。さらに、講師が研究している故障解析の手法をソフトウェアに適用する方法についても紹介する。

エー4
甲府キャンパス

8月7日(水)
14:50~16:20

循環型社会の実現へ向けて ～適正な廃棄物管理とは？～

金子　栄廣(土木環境工学科)

わが国では、２０世紀終わりから循環型社会を実現するための様々な取り組みが急速に進められるようになりました。

この講義では、まず循環型社会について、その定義と目的を明らかにしたうえで、このような社会を実現するために導入された新しい考え方、それを踏まえた法体系の整備、そして循環型社会の到達度を評価するための指標とその現状など基本的な事項について解説します。

次に、循環型社会を目指すうえで重要な廃棄物管理に焦点を当て、その基本的な考え方や現在の状況や動向について説明します。

最後に、適正な廃棄物管理を目指す取り組みの中で、一般市民にとって身近なところで行われている事例を紹介し、私たち一人ひとりの行動が循環型社会の実現に関わっていることを知ってもらいたいと考えています。

エ−5
甲府キャンパス

8月8日(木)
9:00〜10:30

コンピュータシミュレーションが開く新たな自動車開発

岡澤　重信(機械工学科)

最近の自動車開発は大きな変革期に来ている。本講義では、最近の自動車の変革について考えるとともに、次世代に向けた開発方法について述べる。またコンピュータシミュレーションを用いた、経験や勘に頼らない新たな自動車開発や未来の自動車の可能性について説明する。

エ−6
甲府キャンパス

8月8日(木)
10:40〜12:10

私たちの未来とロボット

丹沢　勉(情報メカトロニクス工学科)

皆さんは「ロボット」と聞くとテレビアニメや映画の中の物と思っていませんか？ 皆さんの周りには、すでに様々なロボットが存在しており、我々人間の支援をしています。この講義では、我々の身の周りのロボットを紹介しながら、これらのロボットの特徴やロボットに求められていることなどをお話します。

また、ロボットを実現するためには、機械・電気回路・コンピュータなど様々な知識・技術が必要です。これらの基礎として、高校で学ぶ物理・数学が用いられています。つまり、高校での物理や数学の先にロボットがいると言っても過言ではありません。そこで、実際のロボットでの制御を例に挙げ、高校での物理や数学がどのように使われ、制御を行うのかなどのお話をします。

さらに、近年ぶつからない車・自動運転が話題になっています。これらも、広い視野で見れば自動車の形をしたロボットと考えることができます。これらぶつからない車がどのように周囲の車や歩行者などを認識しているのか、どのように考えて自動運転を行っているのかなどを紹介いたします。

エ−7
甲府キャンパス

8月8日(木)
13:10〜14:40

光と電子のミクロな同期現象と未来の光科学技術への挑戦

石川　陽(先端材料理工学科)

同期現象は異なる振動のリズムがそろう現象のことで、ホタルの点滅、心臓の鼓動、脳の神経回路など様々な場面で起こります。また、インターネットで検索すると初めばらばらなメトロノームが次第にそろう動画を見ることができます。このような同期現象はマクロな世界だけのものではなく、ナノ構造とよばれる非常に小さな物体に閉じ込められた電子が光と結合することでミクロな世界の同期現象も起こります。光合成系での光エネルギー伝送や光の超放射などで起こるミクロな同期現象は、ナノ構造に閉じ込められた電子が振り子のように振動し、光が電子の振り子同士をつなぐことで振動のリズムがそろいます。本講義では、様々な同期現象に共通する普遍的な物理法則に注目し、身近な振り子のモデルを使ってミクロな世界の光と電子の不思議な振る舞いを解説します。また、光と電子のミクロな同期現象を使った未来の光科学技術への挑戦の一例を紹介します。

エ−8
甲府キャンパス

8月8日(木)
14:50〜16:20

私たちの暮らしを支える半導体エレクトロニクス

村中　司(電気電子工学科)

最初の半導体トランジスタが発明されてから約７０年の間に半導体材料を使った集積技術は目覚ましい進歩を遂げました。トランジスタは個別部品から大規模集積回路に姿を変え、微細化かつ高速化の挑戦が日々続いています。トランジスタが小型化し、安価になったことにより、従来では使うことができなかった環境においても高性能なデバイスが用いられるようになりました。その結果、今まで出来なかったデータの収集や高度な計算処理が可能となり、これまで知られていなかった事実が次々に発見されてきています。本講義では、トランジスタや集積回路技術の発展を「半導体材料」の観点に着目し、基礎から最新の技術動向まで学習します。最新の電子機器にも大学で学ぶ「半導体デバイス」が多数用いられています。本講義の一部は、大学で実際に行われている講義内容を行います。大学の講義を一足はやく体験してください。

教－1 甲府キャンパス

8月7日(水)
9:00～10:30

理解こそ『最「幸」』の発達援助 －特別支援教育がめざす地平－

古屋　義博(障害児教育コース)

「よい－わるい」という大人側の勝手な価値判断をいったん止め、目の前の子どもをあるがままに理解する。この姿勢こそが、障害のある子どもの発達援助、つまり特別支援教育がめざす地平です。

「発達障害」や「知的障害」などと呼ばれる子どもがいるようですが、一部の大人たちの都合で決められたそのような「枠組み(障害名)」を超え、どの子どもにも唯一無二の「その子らしさ」があります。その「らしさ」が誰かにあるがままに理解されると、その子どもは幸せを感じ、育つべき方へと育ち、さらに幸せになります。

目を転じます。高校生のあなたも「大人から、ああだ、こうだ、と言われたくない。自分のことを理解して！」と感じたことがあったでしょう。一方で、あるがままに理解された瞬間、幸せを感じ、次の一歩を踏み出せ、次の幸せをつかんだはずです。あなたのこれまでの歩みや今を考えながら、特別支援教育に関する基礎理論を学んでください。

教－2 甲府キャンパス

8月7日(水)
10:40～12:10

金管楽器の進化から眺める音楽史概観

大内　邦靖(芸術身体教育コース)

角笛を起源とする金管楽器は狩りや軍楽隊、教会などとの結びつきを経てオーケストラの一員として組み込まれます。その後も製作技術の進歩や音楽的ニーズによって飛躍的な進化と変化、そして分化を遂げてきました。その過程をたどってみると、音楽全体の進化や歴史が浮かび上がってきます。弦楽器はAの音でチューニングするのに金管楽器の多くは半音高いB♭管で作られている理由も歴史をたどると納得！！目からウロコの音楽史概観。

教－3 甲府キャンパス

8月7日(水)
13:10～14:40

確率で見る現実世界

中村　宗敬(科学教育コース)

皆さんは確率というと、どのようなイメージを持つでしょうか。日常感覚的にいえば、確率とは特定の出来事の起こりやすさを表す数値で、例えば降水確率などのように身近にあり、知らず知らずのうちに意識しているもの、というのが一般的な捉え方だと思います。

一方で中学・高校で確率を学習した人にとってはどうでしょうか。順列・組み合わせの戸惑わせるような計算の後にようやく答えにたどりついてもなかなか合わない。しかも、さいころのこれこれの目の組み合わせが出る確率、などといったおもちゃの遊びのようで、現実との関連がわからなくなってしまう、といった経験が多いでしょう。

この講義では、実際のデータを確率でどのように説明できるかを考えてみます。具体的には、誕生日一致、サッカーの得点、そして両者を理論的に確率と結びつける仲立ちとして上に述べた「おもちゃの遊びよう」なさいころ投げを取り上げて、皆さんといっしょに考えてみたいと思います。

教－4 甲府キャンパス

8月7日(水)
14:50～16:20

憲法って何だろう、立憲主義って何だろう

森元　拓(生活社会教育コース)

いま、憲法改正が具体的な政治的テーマとして挙げられています。日本国憲法改正の国民投票が実際に行われた場合、有権者である皆さん(18歳以上に投票権があります)は、賛成に投票しますか？反対に投票しますか？

その前に、皆さんは、そもそも憲法とは何なのか、たくさんある法律の中でどのような位置づけなのか、判りますか？また、憲法の前提となる思想が立憲主義という思想です。では、立憲主義とは何なのか、判りますか？「判らない」と答えた皆さんは、憲法や立憲主義の意味をわかっていないのに、一票を投じることになります。それで正しい判断ができますか？

本講義では、判っているようで判っていない、「憲法」と「立憲主義」の意味と意義について考えます。

教ー5
甲府キャンパス

8月8日(木)
9:00~10:30

第二言語習得理論から見る効率的な英語学習のあり方

田中　武夫(言語教育コース)

最近の第二言語習得理論から英語の学習メカニズムについて様々なことが明らかになってきています。本講座では、受講者の皆さんに実際にいろいろな活動を体験してもらいながら、外国語である英語をどのように学習すればよいのかそのヒントについて考えることにします。例えば、英語の学習を行う際に、身の周りにあふれる英語(音声や文字のインプット)をどのように私たちは理解しているのか、英語の単語はどのように記憶すればよいのか、英語をアウトプットする(話せるようになる)ためには、どのようなことを練習すればよいのか、などについて考え、効率的な英語学習の方法について考えます。

教ー6
甲府キャンパス

8月8日(木)
10:40~12:10

幼児の世界をのぞいてみよう

大野　歩(幼小発達教育コース)

保育所や幼稚園へ行くと、子どもたちがいろいろな遊びをしている姿に出会います。砂場で工事をしている子、ピカピカの泥団子を作っている子。ダンゴムシをカップいっぱいに集める子、蝶が蜜を吸う様子をじっくり観察している子。ビーズや毛糸で素敵な腕輪を作っている子、衣装を身に着けて歌い踊っている子。色水で作ったジュース屋さんを開店している子もいれば、氷や炎の世界を舞台に戦いごっこをしている子もいます。

このような幼児期の子どもたちは、一見すると、自由気ままに遊んでいるかのように思われます。しかし、その姿をよくよく見ていると、そこには子どもたちの豊かな発想や知恵がぎっしり詰まっていることがわかります。そして、日々心を動かしながら、様々な側面を発達させていく、その子なりの育ちの物語があることに気づきます。

さあ、皆さんも私と一緒に、幼児の目線から子どもたちが経験している世界をのぞいてみませんか？

教育学部

教ー7
甲府キャンパス

8月8日(木)
13:10~14:40

漢詩を読むー李白と杜甫ー

伊﨑　孝幸(言語教育コース)

みなさんは李白と杜甫を知っていますか。おそらく名前くらいは聞いたことがあるでしょう。しかし、その作品についてはどうでしょうか。詩のタイトルはなんとか思い出せても、その内容について多くを語るのは難しいのではないでしょうか。漢詩・漢文の知識は、かつては我が国でも必須の教養とされていましたが、今ではすっかりなじみの薄いものとなってしまいました。この講義では、中国古典詩の双璧とされる李白と杜甫の作品世界の特徴を、両者を比較しながら読み解いてゆきます。たんに詩の表面的な意味を理解するだけでなく、作品を詳しく分析することで、それぞれの人生観、世界観といったものにも迫ってみたいと思います。講義で扱うのは漢詩・漢文だけですが、広く文学について、また言葉そのものについて、みなさんがこれから更に深く考えてゆくためのヒントを提供できればと思っています。

教ー8
甲府キャンパス

8月8日(木)
14:50~16:20

どうして学校で保健体育を学ぶのか？

金沢　翔一(芸術身体教育コース)

皆さんは保健体育で学ぶ目的について考えたことはありますか。また、皆さんはこれまでの体育や保健体育で何を学んでいるでしょうか。小学校から高等学校に至るまで「体育」や「保健体育」という科目があり、ボール運動、器械運動、水泳などの運動種目や体の仕組みについて学んでいると思います。しかし、保健体育は受験科目でないことから学ぶ必要がないと思っている人もいるかもしれません。実は、保健体育の内容には、皆さんがこれからの生活を豊かにするヒントがたくさん含まれています。本講義を通じて、「これらの経験を通じて私たちは何を学んでいるのか？」加えて、「体育や保健体育を学ぶ目的とは何か？」について一緒に考えていきます。

教ー9
甲府キャンパス

8月9日(金)
9:00〜10:30

新しいSI単位と次元

長島　礼人(科学教育コース)

もし「1mと1kgはどちらが大きい？」と尋ねられたら、あなたは「それは比べようがない」と答えるでしょう。物理学では、大小関係を議論できないことを「次元が異なる」と形容します。長さ(距離)、時間、速度、電流、電圧など、物理学では次元が異なる多種類の量を扱います。ただし、速度が「長さ÷時間」の次元を持つように、力学と電磁気学で扱う量は質量、長さ、時間、電流の4種類の次元の組合せで表せます。では、これらの基本量の単位はどのように定義されているのでしょうか？例えば「kg」は最初、キログラム原器を用いて定義されました。ですが、人工物を用いることで生じる誤差を解消するため、基本単位の定義を人工物に拠らないものへと改訂する努力が20世紀の後半以降、続けられてきました。この授業では、今年の5月20日に施行される基本単位の新しい定義を紹介するとともに、それがどのような物理法則に基づいているのかを解説します。

教ー10
甲府キャンパス

8月9日(金)
10:40〜12:10

ライフデザインを考えよう ー現代生活の課題を探るー

志村　結美(生活社会教育コース)

みなさんは、未来の自分を思い浮かべることができますか。未来の生活は自分自身で創っていくものです。

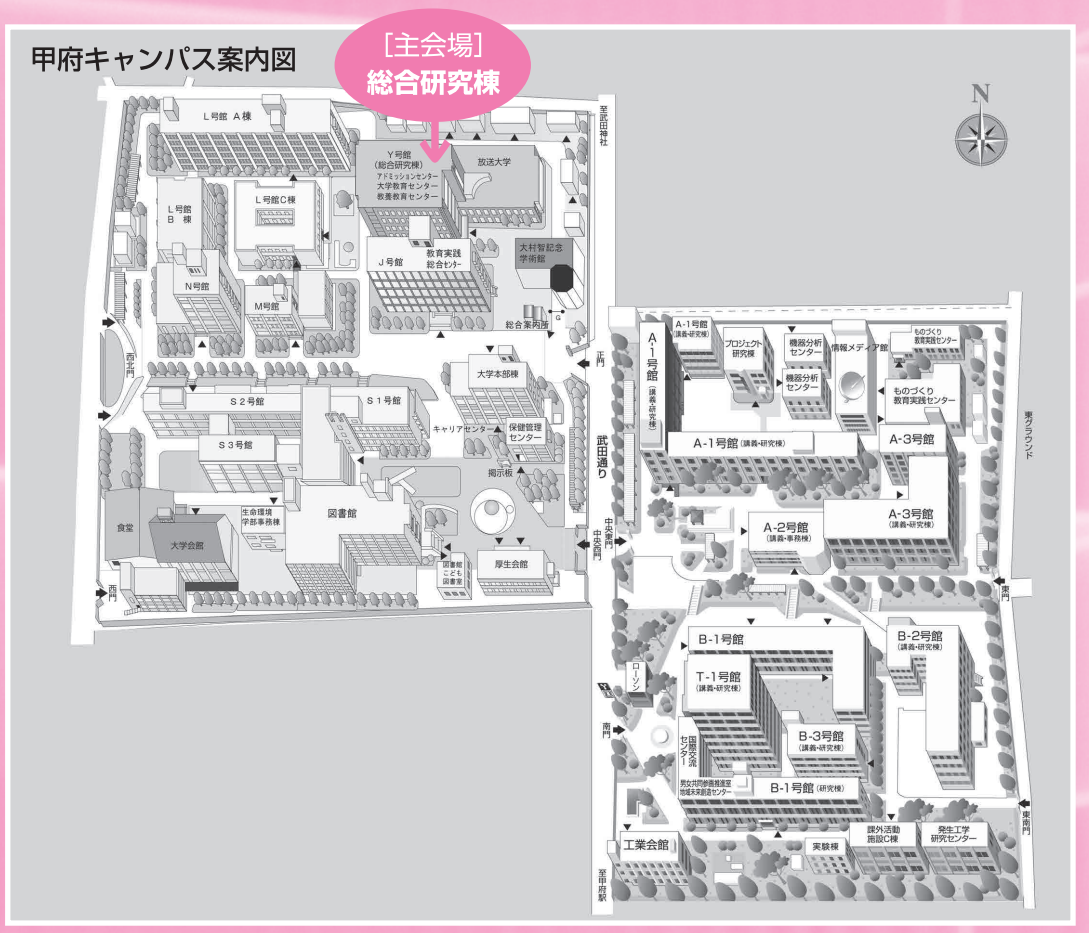
私たち、すべての人は限りない資源を持っています。生きていく上で役に立つもの、無くてはならないものを「生活資源」といいます。家族や友人といった人間関係、もの、金銭、空間、時間、情報、そして私たちが持っている知識や技術も能力という生活資源です。それらを大切にしながら、自己実現をめざして、どのように自分の人生を生きていくのか、主体的に考えていく必要があります。また、現代を生きる私たちを取り巻く生活には多様な課題があり、私たちの未来に大きく影響を与えます。現代の私たちの生活課題を探りながら、ワークショップを通して、自分自身の未来をデザインしてみましょう。

[山梨大学へのアクセス]

甲府キャンパス（教育学部・工学部・生命環境学部）

甲府市武田 4-4-37

甲府キャンパス案内図



◎JR中央本線・甲府駅下車
北口より徒歩約20分
◎JR中央本線・甲府駅下車
北口よりバス
（武田神社・積翠寺行き）で約５分
山梨大学下車

医学部キャンパス

中央市下河東１１１０

医学部キャンパス案内図

◎JR身延線・常永駅下車
徒歩約15分
◎JR甲府駅南口よりバス
（山梨大学医学部附属病院行き）
で約30分
◎中央自動車道
甲府昭和インターより約10分
甲府南インターより約20分

UNIVERSITY OF YAMANASHI

山梨大学教務企画課総務グループ

〒400-8510 甲府市武田 4-4-37　TEL:055-220-8043　FAX:055-220-8796

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。